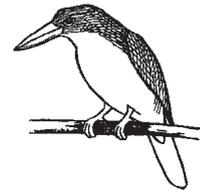


(公財)山階鳥類研究所  
〒270-1145 千葉県我孫子市高野山 115  
電話：04-7182-1101 Fax：04-7182-1106  
<http://www.yamashina.or.jp>



## 第17回山階芳麿賞 日本イヌワシ研究会への贈呈を決定しました

第17回山階芳麿賞を日本イヌワシ研究会（会長：小澤俊樹氏）に贈呈することを決定しましたのでお知らせいたします。山階芳麿賞は平成4（1992）年から実施していますが、団体への贈呈は今回が初めてです。

贈呈理由（添付資料参照）のあらまは、日本イヌワシ研究会が、1981年の発足以来、日本の野生動物保全のシンボルというべきイヌワシについてきわめて重要な科学的データを提供するとともに、生態的な知見にもとづく保護上の実践を行い、普及啓発にも努めてこられたことが、山階芳麿賞選考委員会により評価されたものです。



巣にいるイヌワシの親子  
（撮影：須藤一成氏（日本イヌワシ研究会））

### イヌワシ

*Aquila chrysaetos*（タカ目タカ科）

天然記念物

絶滅危惧IB類（EN）（環境省レッドリスト（2006））

全長は75～85cm、翼開長は175～200cm、体重は3～5kg\*。ユーラシア、アフリカ北部、北アメリカの平原から山地まで生息。日本には亜種 *japonica* が北海道、本州、四国、九州に生息し、断崖の岩棚で繁殖する。餌動物はノウサギ、ヤマドリ、ヘビ、キツネ、テンなど\*\*。

\*測定値・体重と、\*\*食性は日本イヌワシ研究会のウェブサイトによる。

### 山階芳麿賞

国内において鳥学及び鳥類保護に顕著な功績のあった者（団体を含む）を讃え、わが国の鳥学の発展並びに鳥類保護の振興に寄与することを目的として、平成4（1992）年の山階鳥類研究所財団設立50周年を記念して設けたものです。賞の名称は、山階鳥類研究所の創立者、山階芳麿博士の功績を記念しています（添付資料をご参照ください）。

### 贈呈式について

第17回山階芳麿賞の贈呈式と受賞記念講演を、山階鳥類研究所財団設立70周年記念シンポジウムと合わせて下記日程で開催する予定です。詳細が決定しましたら、改めてお知らせいたします。

【名称】第17回山階芳麿賞贈呈式・受賞記念講演と記念シンポジウム（仮題）

【日付】平成24（2012）年9月23日（日）

【場所】有楽町朝日ホール

東京都千代田区有楽町2-5-1 有楽町マリオン11F

【内容】

・贈呈式 ・記念シンポジウム

※この資料に掲載した写真（デジタルデータ）をご希望の方は下記までご連絡ください。

#### イヌワシ写真使用についてのお願い

使用に際しては、必ず下記クレジットを明記してください。

「撮影：須藤一成氏（日本イヌワシ研究会）」

また、下記目的以外の使用は二次使用（不正使用）とみなされ、損害補償金が発生することがありますので注意してください。

トラブル防止のため、使用が済み次第、データを消去してください。

「使用目的：山階芳麿賞受賞に関する新聞・雑誌・テレビ報道およびネットニュース」

本件についてのお問い合わせ先

(公財)山階鳥類研究所 広報主任：平岡考

電話：04-7182-1101 FAX:04-7182-1106

平成24（2012）年4月1日「財団法人山階鳥類研究所」は「公益財団法人山階鳥類研究所」に名称を変更いたしました。

## 日本イヌワシ研究会へ山階芳麿賞の贈呈理由

山階芳麿賞選考委員長 林良博

日本イヌワシ研究会は、日本で単一鳥種を対象としたアマチュア研究者による研究会の先駆けをなす団体です。イヌワシは、生態系の食物連鎖の頂点に立つ捕食者ですが、急峻な山岳地帯に生息、営巣することから、調査の困難さは多くの野生鳥類のなかでも群を抜いており、個体数の減少が危惧されているながら、その全国的な生息状況は長らく不明のままでした

同会は、1981年の発足以来、イヌワシの生息数、生息状況を調査し、単に全国的な個体数を割り出すだけでなく、繁殖状況を毎年継続的に把握するメンバーとシステムを整えて活動してきました。また、幼鳥の分散状況の調査や、繁殖失敗の原因調査を行い、巣の人工的補修とその効果の検証といった科学のプロセスを重視した実践的な保護活動も実施するなど、多角的な活動を行ってきました。同会の活動によって得られた、国内でイヌワシの番いがどこに生息しており、今年の繁殖状況はどうかという情報はイヌワシの保護を進めていく上でかけがえのないものであり、国の保護増殖事業や地方自治体の保護施策は、同会の科学的な基礎情報があってこそ有効なものになってきた経緯があります。

さらに同会は、調査研究の成果を、1983年に創刊され現在までに22号を数えている会誌「*Aquila chrysaetos*」で公表し続けてきており、たびたびシンポジウムを行って普及啓発にも力を注いできました。これらの点もまたイヌワシの生態研究と保護に対する非常に重要な貢献です。

このように、同会が団体の持つ強みを生かし、30年以上に亘って、日本の野生動物保全のシンボルというべきイヌワシについてきわめて重要な科学的データを提供するとともに、生態的な知見にもとづく保護上の実践を行い、普及啓発にも努めてこられたことは、鳥類の学術研究の功績ならびに科学的知見に基づいた鳥類保護活動を重視して選考する山階芳麿賞にふさわしいものと、山階芳麿賞選考委員会は判断いたしました。そして、これからも引き続き本種に関する調査研究がより一層、科学的かつ体系的に行われ、生態の知見を生かした保護活動が実践されることを期待して、第17回山階芳麿賞を日本イヌワシ研究会に贈呈することにいたしました。

## 第17回山階芳麿賞受賞者 日本イヌワシ研究会



集合写真 (提供 : 日本イヌワシ研究会)

【団体名称】 日本イヌワシ研究会

【設立】 1981年5月

【役員】

会長 小澤俊樹

副会長 横山隆一、新谷保徳

事務局長 須藤明子

【連絡先】

〒521-0306 滋賀県米原市下板並 348-1 須藤明子方

日本イヌワシ研究会 事務局

TEL : 0749-58-8046 FAX : 0749-58-8047

【目的】 「イヌワシの調査、研究ならびに保護を目的とする」

【活動内容】

イヌワシの生息状況のモニタリング調査 (全国の会員が実施)

全国合同調査

シンポジウム

全国生息繁殖状況調査

機関誌「Aquila chrysaetos」の刊行 (1983年の創刊以来現在までに22号を刊行)

・ニュースの発行

保護対策の実施

研究成果の学会への発表

【Web ページ】

<http://www.sрге.info/index.jp.php>

## 山階芳麿賞について

山階鳥類研究所は、平成 4 (1992) 年 7 月に行われた財団創立 50 周年記念行事の一環としてこの賞を設けることにした。この賞は日本の鳥学及び鳥類保護に寄与された、山階鳥類研究所の創立者・故山階芳麿博士の功績を記念して、「山階芳麿賞」と名付けた。

山階芳麿賞は、国内において鳥学及び鳥類保護に顕著な功績のあったものを讃え、わが国の鳥学の発展並びに鳥類保護の振興に寄与することを目的としている。

受賞者は「山階芳麿賞」選考委員会で選考される。受賞者は、隔年度 1 名とし、選考の結果該当者がいない場合には、その年度の表彰は行わない。選考委員会は山階鳥類研究所所長が委員長を務め、山階鳥類研究所副所長、理事及び評議員 (5 名以内)、学識経験者 (5 名以内)、その他理事長が必要性を認め適格と判断する者 (若干名) で構成される。受賞者の選考は、出席選考委員の過半数をもって決定する。

受賞者には、山階鳥類研究所総裁・秋篠宮文仁親王が表彰する予定で、表彰状と山階芳麿賞記念メダルを贈呈する。記念メダルのデザインは、表・山階芳麿博士肖像、裏・ヤンバルクイナのレリーフとなっており、受賞年と受賞者氏名が刻印される。ヤンバルクイナは沖縄県で発見され、昭和 56 (1981) 年に山階芳麿博士らが新種として発表した山階鳥類研究所のシンボルの一つ。なお、平成 15 (2003) 年度からはさらに副賞として「朝日新聞社賞」(賞金 50 万円と盾) が贈られている。

歴代の受賞者は下記のとおり。

回数	氏名	所属・職名	受賞年月日	備考
第一回	羽田健三	信州大学名誉教授	平成 4 年 7 月 3 日	H 6 年 11 月逝去
第二回	松山資郎	山階鳥類研究所顧問	平成 5 年 7 月 5 日	H12 年 8 月逝去
第三回	中村 司	山梨大学名誉教授	平成 6 年 7 月 5 日	
第四回	黒田長久	山階鳥類研究所所長	平成 7 年 7 月 5 日	H21 年 3 月逝去
第五回	中村登流	上越教育大学名誉教授	平成 8 年 7 月 3 日	H19 年 11 月逝去
第六回	正富宏之	専修大学北海道短期大学教授	平成 9 年 9 月 9 日	
第七回	樋口広芳	東京大学大学院教授	平成 10 年 7 月 4 日	
第八回	山岸 哲	京都大学大学院教授	平成 11 年 7 月 3 日	現・山階鳥類研究所名誉所長
第九回	藤巻裕蔵	帯広畜産大学教授	平成 12 年 6 月 17 日	

第十回	小城春雄	北海道大学大学院教授	平成 13 年 6 月 1 日
第十一回	中村浩志	信州大学教授	平成 14 年 6 月 7 日
第十二回	石居 進	早稲田大学名誉教授	平成 15 年 9 月 23 日
第十三回	由井正敏	岩手県立大学教授	平成 16 年 9 月 23 日
第十四回	長谷川博	東邦大学教授	平成 18 年 9 月 23 日
第十五回	立川涼	愛媛大学名誉教授	平成 20 年 9 月 23 日
第十六回	森岡弘之	国立科学博物館名誉研究員	平成 22 年 9 月 23 日